



悠久会 埼玉支部 会報

新潟大学 工学部 同窓会

(第13号)

発行：悠久会 埼玉支部

発行者：支部長 田島富二夫 (子 43)

編集者：副支部長 鯨井 和幸 (電 47)

発行日：平成23年5月2日

悠久会 埼玉支部 総会(第17回)のご案内

拝啓 新緑の候、支部会員の皆様にはご健勝のこととお喜び申し上げます。

とは言っても、大変な未曾有の大災害が発生しました。学友・ご家族の中にも被害にあわれた方が大勢いらっしゃると思います。大学では3月の卒業式が大幅に縮小され、卒業祝賀会も中止になりました。埼玉支部でも、4月初旬に計画していた「ふれあい・さいたまウォーキング」を中止にしました。

地震・津波の被害だけならひたすら復興のみですが、原発の崩壊は放射能汚染の底知れぬ恐れを日本中に撒き散らしています。自粛ムード・控えムードが蔓延しています。これでは『日本経済はどうなってしまうのだろうか?』などと気持ちも暗くなりがちですが、一方では、こんな時こそ元気を出して、いつもどおりのことをより元気良くやろうという意見も多く出てくるようになりました。

そこで、いつもどおり平成23年度の悠久会埼玉支部総会を、下記のとおり開催いたします。

当日は、母校・本部ならびに近隣支部から、多数のご来賓をお招きいたします。ご多忙とは存じますが、皆様お誘い合わせの上、多数ご参加いただき日頃の鬱憤を晴らして頂きますようお願いいたします。

尚、準備の都合上、5月20日(金)までに到着しますよう、同封の葉書にて出欠のご連絡を頂きたいと思っております。

敬具

記

1、日時 平成23年6月4日(土) 11:00~16:00

2、会場 東晶大飯店

住所 さいたま市大宮区宮町2-28 あじせんビル3F

電話 048-644-0881

交通 大宮駅(新幹線・高崎線・宇都宮線・埼京線等)

東口より徒歩5分

3、式次第

第一部 総会 11:00~12:50

母校・本部近況紹介 他

講演会 (12:00~12:50)

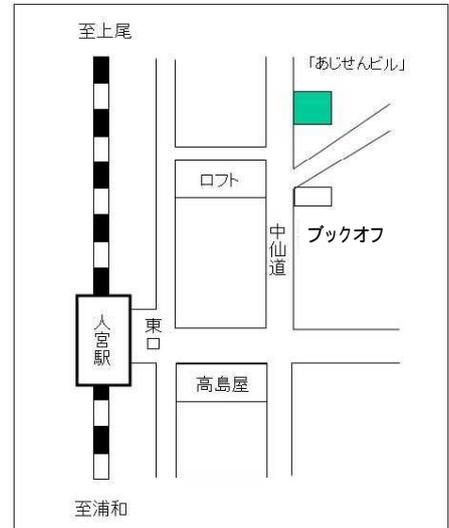
「照明と文化(仮題)」

... 新潟大学名誉教授 関根 征士(電39)氏

第二部 懇親会 13:00~16:00

4、会費 8,000円

(但し、新卒会員の方は無料、...ご招待とさせていただきます。)



尚、返信用葉書にはメールアドレスの欄がありますが、勤務先/ご自宅とも支部からのご案内を差上げて支障の無いアドレスをお書きください。(両方でもかまいません)

ご返信の宛先は、埼玉支部・副支部長(事務局長) 大友 眞(機52)宛てとなります。

支部年会費 納入のお願い

埼玉支部の年会費は2,000円です。支部総会案内や会報の作成・印刷他、連絡費用等の活動資金です。同封の郵便振替用紙をご利用ください(通常払込料金無料)。健全な支部活動を継続するためにも、支部会員の証としてぜひご納入いただきますようお願いいたします。

特別寄稿

東京イノベーションクラブ副会長の菊池利夫先生は、今年1月に宮古市へ赴任されたばかりでした。直後の大震災です。3月下旬に新潟大学首都圏同窓会宛頂いた書簡には、直接災害を体験された生々しい思いがつつられています。先生のお許しを頂いて、ここに掲載させていただきます。

3. 1. 1 大地震・大津波を経験して・・・宮古市より

新潟大学東京イノベーションクラブ副会長

(岩手県立宮古病院 副院長)

菊池 利夫 (医学部 49)

今回の大地震、大津波に際しては、皆様には大変ご心配をおかけしました。

テレビ報道で三陸沿岸部の悲惨な様子が映し出され、宮古市の映像もたびたび目にされたと思います。あの津波に巻き込まれていたら・・・と思われたでしょう。また、地震直後から病院の電話や携帯電話が繋がらなくなり、私の安否を確認しようにもできなかったことで余計ご心配をおかけしました。そして、たくさんのお見舞いを賜りました。皆様の温かい心をどれほどか深く感じ、心からお礼申し上げます。

3月11日(金)震災発生の日、私は東京に帰る予定でした。

午後3時前、外来診療を終えて山腹にある病院から市街地にある自宅に向かうため、車で坂道のカーブを下っている時でした。経験したこともないような大きな揺れを感じ、まともな運転ができないほどでした。道路端に車を止め、揺れが治まるのを待ち、坂道を下りました。坂をおり切った魚市場に近い交差点の信号機は消えており、対向車に注意しながら市街地のメインストリートを抜け、自宅にたどり着きました。自宅に着いたと同時に再び大きな揺れを感じ、これはただ事ではないと思い、東京行きをあきらめ病院に引き返すことにしました。

直感的に車では危ないと感じ、歩いて戻ることになりましたが、結果的には正しい判断でした。

車で通ってきたメインストリートには津波が押し寄せて来ており、軽自動車が浮かんでいるのが見えたのでした(後日、そこを車で通りましたら漁船が2艘打ち上げられていました)。あわてて病院へ向かうお寺の坂道を駆け上がり、やっとの思いで病院にたどり着きました。

病院ではすぐさま災害時医療体制がとられました。玄関を入ったすぐのところに机を置き、簡易受付とし、札(タグ)を渡します。患者さんを緑(軽症)、黄色(中等症)、赤(重症)、黒(瀕死)にトリアージするためです。緑は玄関に近い診察室の待合コーナーで診察、黄色はやや奥まった診察室の待合コーナーで長椅子やストレッチャーの上で診察、赤・黒は急患室のストレッチャーで静脈ルートを確保したり、レントゲン・心電図検査をしたり、心肺蘇生をしたり・・・野戦病院の様相でした。

次から次へと患者さんが運び込まれて来ました。津波にのみこまれ心肺停止状態の中年女性(トリアージ黒)、鎖骨や両大腿骨骨折の男性(同赤)・・・津波の恐ろしさをまざまざと見せつけられました。最初の二～三日間は深夜まで目の回る忙しさで、医師は総出で診療に当たりました。災害支援医療チーム(DMAT)が翌日から何チームか来られ、特に赤・黒コーナーを担当してくれてとても助かりました。

2週間ほど災害対策医療体制を敷き、その後通常診療に戻りました。

現在は、避難所で不自由な日々を過ごされている方達が数多く来られます。ストレスで血圧が高くなったり、風邪をこじらせ肺炎になったり、トイレを我慢しすぎて便秘や膀胱炎になったり、エコノミー症候群・・・この方達は、全国から集まったボランティアの医療チームによって巡回診療を受け、治療が必要とされ病院に来るのです。

避難所が存在する限り、被災後のストレスが続く限り、現場へ出て行つての医療サポートが必要と思われます。

さて、今回の自然災害を経験し、さまざまな思いが頭に浮かびました。

大自然の猛威は想像をはるかに超えること、大自然の過酷な仕打ちに対して人は無力であること、だから自然に対しては恐れを持ちなくてはならないこと、自然の大災害を運命

として認めれば（あきらめれば）苦難を乗り越える希望を持つことができること……。そして希望は、人が寄り添うこと、優しい気持ちで助け合うこと、自分ができることを惜しみなくすることで湧いてくることを改めて知りました。

「患者あつての医者」との思いで宮古にやって来ました。水と空気がきれいで魚がおいしい宮古を気に入り始めた矢先の大災害でした。この大災害をつぶさに経験し、「命あつての人間」ということを思い知らされました。

「最大の名誉は、決して倒れないことではない。倒れるたびに起き上がることである」と被災地の中学校の卒業式での校長先生の訓辞が新聞に載っていました。

東北人の我慢強さ、粘り強さが感じられます。

必ずや復興するでしょう。

無口でがきっちょでコミュニケーション能力は決して長けているとは言えないけれど、心はやさしい宮古の人たちと心を寄せ合いながら、天から与えられた試練を乗り越えていきたいと思っております。

【 後日のお便り 】

3月25日夜、新潟大学医学部の支援チームが来てくれました。翌日、保健所で打ち合わせを行い、避難所での夜間の巡回診療により震災関連死の防止に寄与できることを提案、現場の職員に大いに感謝されていました。中越地震、中越沖地震の被災経験が大いに役立ったようです。有事の際は孤立させない、希望を持たせることが大変重要だと思いますので大学の支援は本当にありがたいです。

落ち着いたら元気な姿をお見せしたいと思えます。

新潟大学首都圏同窓会では、月例の二水会を中心に義援金を募り、計161万円(4/22時点)を岩手県立宮古病院へお送りしたとのことです。

ごあいさつ

埼玉支部 支部長

田島 富二夫(子43)

悠久会埼玉支部の皆さま、この度の東北地方太平洋沖地震に伴う東日本大震災に当たり、心よりお見舞い申し上げます。3月11日午後2時46分に発生した東北地方太平洋沖地震は地震・津波・福島原子力発電事故による被害と共に浦安を始めとした関東地方でも液状化等による大きな被害に遭遇しています。

埼玉の同窓生の皆様におかれましても親族や知人・友人等で被災された方も多いのではなかろうかと大変気がかりなところです。地震直後に支部役員の皆様や近隣の各支部長様に被災状況の問い合わせをしましたが、幸いにも人的被害の報告は聞いておりません。その限りでは、とりあえずは安堵するところでございます。

福島の原子力発電事故は、世界に影響を与える一大事故となりました。ソビエトのチェルノブイリ事故やアメリカのスリーマイル島の原発事故を想起し、世界的に原発の是非が問われています。放射能汚染に伴う直接被害と合わせて、風評被害も大きな問題となっております。双葉町の住民は町役場と共にさいたまスーパーアリーナへ、1,400名近い人々が避難をして来ました。その後、埼玉の加須市の廃校になった高校跡地へ移って行きましたが、町は二分され、住民の方々は大変不自由な生活を強いられています。この原発事故は今後の復旧の見通しがたっていないのが現状です。いつ元の町へ帰ることが出来るかも不透明です。スーパーでは、現在でも食材等が十分に揃えられている状況にはありません。

今後は復旧、復興を急ぐことが大きな課題となっておりますが、被害総額は25兆円とも言われ、復興費用は33兆円とも言われています。原発事故を合わせますと更に大きな被害額となります。

震災を受けて工学部の卒業祝賀会も中止となりました。同窓会としては、その経費を原資に

被災学生向け奨学金給付の検討も進められようとしています。 さらに一部を義援金として寄付をするということも合わせて検討されています。

同窓の皆様方も、いま何をなすべきかにつき色々思案されておられると思いますが、義援金や物資の応援等と同時に『被災された人達の生活再建』には日本経済活性化が一番必要なことではないかと考えます。 そのためには、元気な日常を回復することが先ず求められていることと考えます。

今後も大きな余震や誘発地震が数年間から10数年間続くことが予想されていますが、くれぐれも災害を最小限にするべく心がけ、元気な日本を取り戻して行こうではありませんか。

こうした状況の中で、例年通り埼玉支部総会の開催日が近づいてまいりました。6月4日(土)に開催致します。

この総会へ向け4月24日に支部役員会も開催しました。役員会の席では地震のことが大きな話題となりました。 出席者からは、子供さんが東北に勤めていて地震に遇った、娘さんが仙台に勤務していたけれども無事であったといったことが話題になりました。 更に塩釜の友人が車に乗った状態で津波に流されたものの、水没を免れながら車ごと流され、ある建物に流れ着き一命を取り留めたということも話されました。 また、スーパーアリーナへ双葉町の住民の方が避難をしてきた折にお手伝いに力を尽くしたとも話ができました。 福島原発の安全性については、これまで国会でその対策の必要性が問題提起されていたにも関わらず、対策の手が打たれないまま推移し、このような状態になってしまった。 何故その時に手を打たなかったのか。 利潤第一が招いた結果ではないか、ということも指摘されていました。 そして、日本の電力問題についても大変大きな話題になりました。

そのような状況の中で今年の支部総会が開催されますが、日本の復旧・復興、元気な日本を取り戻すべく自粛でなく元気で有意義な支部総会を開催しようと話し合いを行い、6月4日(土)開催が確認されました。

ひとり一人の力は小さなものかもしれませんが、皆で知恵を出し合い、日本の復旧・復興のために、6月4日(土)の支部総会が有意義でかつ楽しい総会となることを期待し、大勢の方の参加のもとで総会を成功させたいと考えます。 大勢の皆様方の参加をお待ちしております。

「ふれあい・さいたま(全国)総会」を振り返って

副支部長(全国総会実行委員長)

的場 義夫(応40)

実行委員会では“多くの参加者に楽しんで(また安く)もらう”を総会のコンセプトとして約1年前から準備を進めました。

簡単に振りかえると、5月末の本部申込締め切りでは、100名程であせりました。

しかし、その後の皆さんの努力で最終的には170名の参加が達成できました。

特にクラス会幹事さんのおかげで50名の参加があり、さらに首都圏の各支部からは合わせて100名の参加があったことに感謝!感謝!です。

講演会の「月周回衛星かぐや」の話と映像は、直前の「小惑星イトカワ」から「ちり」を持ち帰った「はやぶさ」の快挙もあって好評でした。

懇親会は勇壮な秩父太鼓の響きに圧倒され、歌姫2名の歌声にも聞き惚れて・・・と、いつもの埼玉支部の楽しいパターンが実現できたと思います。

翌日の観光は、記録的な猛暑の初日になったようで「鉄道博物館」は館内冷房でしたが、ウォーキングの氷川神社～盆栽村コースは、汗だくになりながらも、皆さんにがんばってもらい有難うございました。

いたらない点も多々あったとは思いますが、実行委員会の全員から再度 感謝!感謝!です。

「ふれあい・さいたまウォーキング」活動報告

埼玉支部 副支部長

出井 道夫（機52）

埼玉支部の恒例行事「ふれあい・さいたまウォーキング」の活動を報告致します。
平成22年度は、さいたまでの全国総会に、ウォーキングを取り入れました。

第31回 ふれあいさいたま総会 観光ウォーキング

期日：平成22年7月18日

第31回は7月にさいたま市で行われた、悠久会全国総会「ふれあいさいたま総会」の観光として開催しました。A・Bと二つのコースを用意し、Aコースを「氷川の杜と武蔵の歴史を訪ねる旅」として、ウォーキングを行いました。Bコースは鉄道博物館の見学でした。

A・Bとも全国の同窓生から参加があり、それぞれ30名以上になりました。

ウォーキングコースは、氷川神社、大宮公園、歴史と民俗の博物館、盆栽村（盆栽園・盆栽美術館）を巡り、JR土呂駅で解散しました。当日は梅雨明け初日の猛暑になりましたが、全員が無事にゴールできました。

鉄道博物館コースも、参加の皆様から好評を得ました。全国の同窓生の皆様に、「ふれあいさいたま」を楽しんでいただけたものと思います。



第31回 A(氷川の杜)コース



第31回 B(鉄道博物館)コース

第32回 高麗の里山を訪ねる旅

期日：平成22年9月18日

残暑が続いた時期ですが、高麗（日高）の里山を9名で訪ねました。秋の高麗は巾着田の曼珠沙華が有名ですが、その巾着田を一望できる日高のシンボル日和田山と、尾根続きの高指山、物見山を走破しました。

下りルート途中には五常の滝があり、マイナスイオンを浴びて下山しました。



第32回 高麗の里山(日和田山にて)

第33回 水郷と歴史のまち 越谷を訪ねる旅

期日：平成22年11月27日

晩秋の越谷タウンウォーキングに、10名の皆様が参加しました。越谷には多くの川が流れており、「水郷こしがや」と言われています。その川沿いに歩きました。

今回は、越谷市の観光協会にボランティアガイドをお願いすることができました。花田苑や逆川緑道では紅葉が見頃で、もみじの赤と黄のコントラストが印象に残りました。



第33回 越谷(花田苑にて)

埼玉支部では今後も季節毎に、「ふれあいウォーキング」を計画します。興味のある方・参加希望される方には、案内をEメールでお送りしますので、お気軽に下記アドレスにご連絡下さい。県外支部や他学部からの参加も大歓迎です。同窓生と気楽に歩いてみませんか。

連絡先：出井(機52) : kwgid@pop.kcv-net.ne.jp

***** 支部・編集子からのお知らせ *****

埼玉支部HP（悠久会HP）情報更新のお知らせ

掲載情報の歯抜け状態が目立ってきたこと、掲載中の写真が古くなったことなどの理由で、悠久会ホームページの中の埼玉支部コーナーの情報を更新しました。

支部会報を、第1号から全て載せました。

”ふれあい・さいたまウォーキング”の報告を、第8回～第30回までをアーカイブ的に掲載し、若干の解説も加えました。

時間がありましたら、次のURLから覗いてみてくださるようお願いいたします。

なお、さらなる変身に向けてマイナーチェンジを検討中です。

URL：http://www.yukyukai.gr.jp/sibukatudou/08_saitama/index.htm

今年の全国総会は、静岡です。

『富士山茶つきり静岡総会』

・・・7月2日(土)～3日(日) 静岡市 ホテルアソシア静岡

詳しくは、悠久会時報・第119号をご覧ください。

来年以降の全国総会開催地は、以下の予定です。

- ・平成24年 神奈川
- ・平成25年 新潟(90周年)
- ・平成26年 日立・鹿島(協同開催)
- ・平成27年 京滋
- ・平成28年 千葉

大変な環境の中、快く記事掲載をご承諾くださいました 菊池 利夫 先生
ありがとうございました。

一日も早い復旧・復興を、埼玉支部一同、お祈りしております。

昨年度(第16回)埼玉支部総会 集合写真です。



6月4日(土) AM11:00 「東晶大飯店」で、お待ちしております。